

医科歯科連携の重要性

一口腔内フローラと腸内フローラががんの予防・治療に結びつく



医療法人慈慶会 ほんだ歯科
理事長

本田 俊仁

Toshihito Honda



医療法人仁善会 田中クリニック
理事長・院長

田中 善

Yoshimu Tanaka

座長

城谷 昌彦

腸内フローラは免疫の調整、代謝、臓器間通信（腸脳相関、腸腎連関など）、有用物質産生（神経伝達物質、ビタミン類など）など人間の生命の円滑な働きを支配している。腸内フローラのバランスが崩れ（ディスバイオーシス）十分な働きが阻害されると、慢性炎症を介して、がん、自閉症やうつ病さらにパーキンソン病や認知症などの神経精神疾患、潰瘍性大腸炎や関節リウマチなどの自己免疫疾患、アレルギー疾患、慢性腎臓病など様々な疾患を発症することになる。そのディスバイオーシスに関与しているのは、消化管の上流にある口腔内フローラであり、歯周病菌、う蝕病原菌などが腸内フローラに大きく影響を及ぼし、口腔内フローラが腸内フローラのバランスを変え、慢性炎症を惹起し、多くの疾患の発症に関与していることが証明されている。歯周病原菌である *Fusobacterium* が大腸がん細胞に多く存在することも発表されている。さらに、口腔内に食物として入ってくる野菜などの土壌菌が口腔内フローラに影響を及ぼしている。すなわち、土壌菌、口腔内フローラ、腸内フローラという微生物循環学を考えていくことが、がんを含む多くの疾患に関与し、その予防・治療に影響を与えている。

今回、次世代シーケンサーによる 16SrRNA を用いた腸内細菌バランス検査、口腔内バランス検査を同一人物で解析した。その関連性と将来の有用性に関して検討し、今後の医科歯科連携による疾患の予防、治療について考察する。また、予防歯科や歯科衛生指導、適切な歯科治療による良好な口腔内環境、適切な食事・栄養指導による腸内環境を維持することががんをはじめとする慢性炎症性疾患の予防・治療に結びつくであろう。

微生物循環学に則り、口腔内フローラを歯科医、腸内フローラを内科医の視点でがんをはじめとする多くの疾患の予防・治療を考察し、医科歯科連携の重要性を提言したい。

本田 俊仁（ほんだ としひと） 歯科医師

- 【所属・役職】
- ・医療法人慈慶会 理事長
 - ・Excellent Breath Alliance Clinic (EBAC) 主宰

- 【学歴】
- ・大阪歯科大学歯学部 卒業
 - ・日本口臭学会 認定医

田中 善 （たなか よしむ）

- 【略歴】
- 鳥取大学 医学部医学科 卒業。
医学博士（大阪大学）。
大阪大学 第一内科（腎臓内科）、大阪厚生年金病院 腎臓内科医長を経て、
医療法人仁善会田中クリニック 理事長に就任。

- 【所属学会・研究会】
- 日本内科学会認定内科医
日本腎臓学会腎臓専門医
日本透析医学会透析専門医、
日本医師会認定産業医、健康スポーツ医。
（一財）腸内フローラ移植臨床研究会代表理事
（一社）日本先制臨床医学会理事
点滴療法研究会ボードメンバー
（一社）日本老化制御医学会常任理事
（一社）日本臨床培養上清研究会理事
（一社）プラネタリーヘルスイニシアティブ理事

【メモ欄】